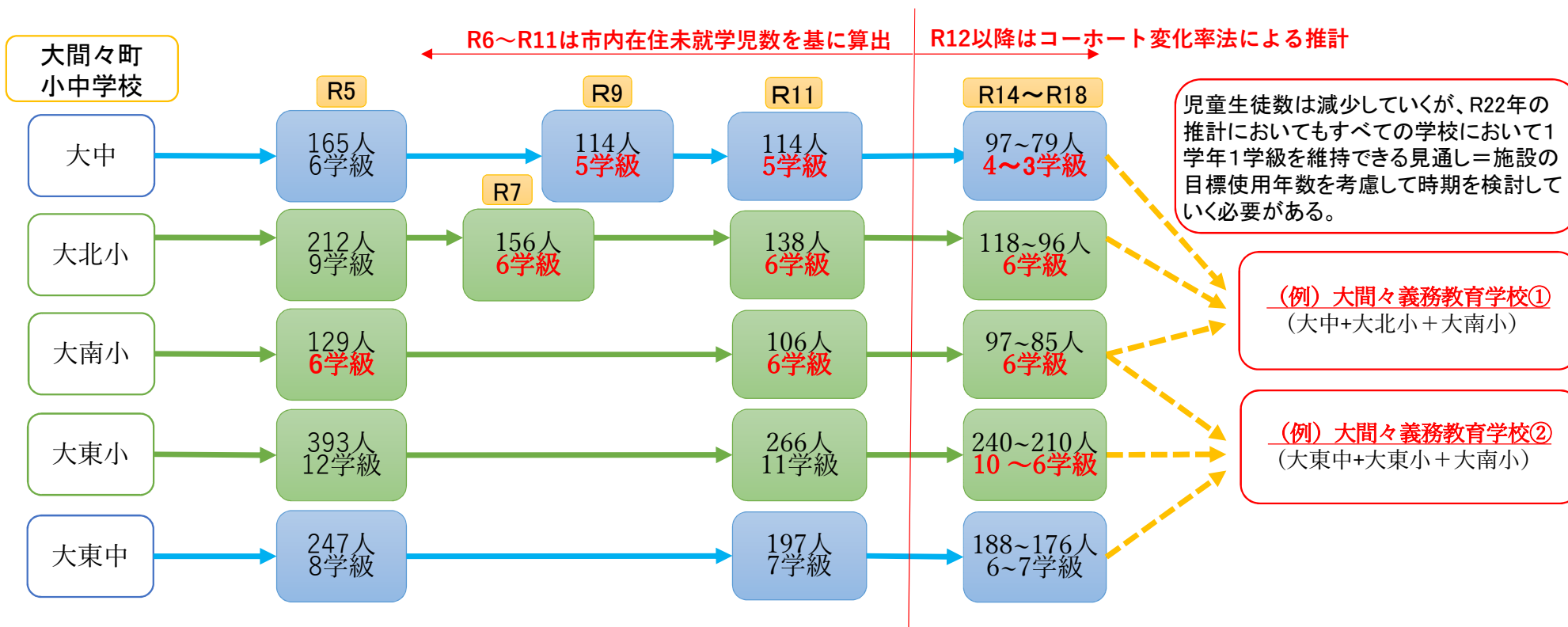
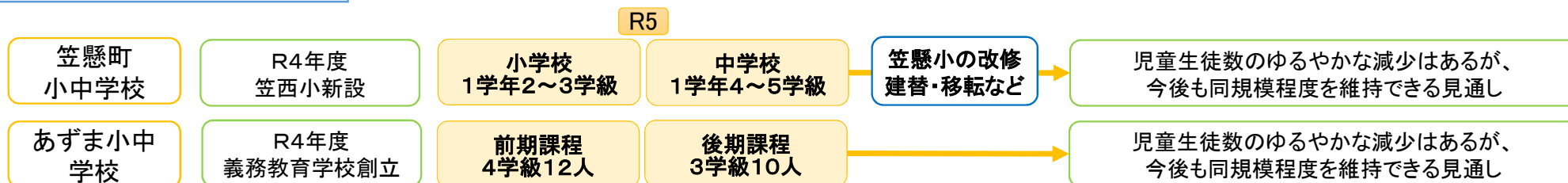


今後の見通し（例）

※検討の時期や方法について、学校適正規模・適正配置について検討するための参考として例示しているものです。具体的な時期や方法について決定しているものではありません。

【資料3】



※R11までは対象地区在住の児童生徒数を基に算定し、R12以降はH23~R11までの児童生徒数推移の平均値から算定しているため、児童生徒数及び学級数は、参考程度にお考えください。
 ※コーホート変化率法による児童生徒数変遷の推計では、R22年度においても複式学級とはならず、1学年1学級を確保できる見込みです。